

地域おこし協力隊が行く!

2021.10
Vol.53

隊員インタビュー

10月9日⑤～10日⑥に開催予定の「火のアートフェスティバル2021」について、実行委員会事務局の藤井隊員と、ワークショップ講師として登場する山中隊員にインタビューしました!

藤井 幸子 隊員
(芸術文化振興支援)



山中 朗子 隊員
(介護予防支援)

藤井隊員／2019年から東御市在住。
山中隊員／自分で簡単に、気持ちよくできる体操を高齢者にお伝えしている。2019年から東御市在住。

小林 ティバル(以下「火のアート」)、今年はどうなことをやるんですか?

藤井 イベントとしては3年ぶりの開催となります。「登り窯焼成」を中心に、コロナ禍でも多くの方が楽しめる内容構成になっています。その他にも、出店、ワークショップなどがあります。民族楽器が加わったクラシック演奏が会場を彩るのも、今回の魅力のひとつですね。

小林 開催にあたり、意識したのはどんな点ですか?

藤井 まず地域の人が「火のアート」をどう思っているか、ヒアリングから始めました。そこで見えて

きた課題を解決すべく、これまでの経緯や地域の皆さんの思いを大切に、この先何十年とイベントが続けていけるように、今回は「土台を作り直す」つもりで新たなチャレンジもしています。

小林 どんなチャレンジですか?

藤井 たくさんありますが、フードの出店という

ひとつは「火のアート限定メニュー」を作ること。もうひとつは、東御市にゆかりのある食材を使ったメニューを提供することです。

小林 つまり、「火のアート」でしか買えないメニューがあると!

藤井 そうですね。コロナ禍での開催のため、出店制限もある中で、出店者の方々には本当に頭が下がります。それに加え、今回初めて「カルチャー」という出店ジャンルも作りました。

小林 山中さんは、「火のアート」で体操の講師をされるそうですね。どんな体操なんですか?

山中 今回皆様とやるのは、バレエダンサーが生んだアートのような体操「ジャ

イロキネシス」という体操です。身体でゆつくりと「円」を描きながら、深い呼吸をめぐらしていきます。椅子に座って行うので、子どもからお年寄りまで楽しめるものになっています。

藤井 人間の身体で「円を描く」ということ

と健康的な身体づくりもまた、一つのアートだと思っています。今回依頼しました。

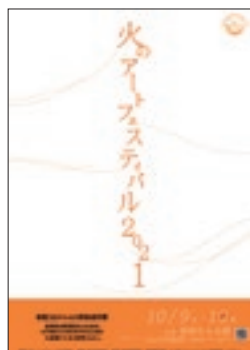


芸術むらの美しい景色の中で、のびのび体操を

小林 山中さんは「火のアート」がきっかけで東御市に移住したと聞きました

山中 3年前に火のアートに訪れたのが東御市

との出会いです。その時の芸術むらの雰囲気と、お祭りがとても楽しくて東御市が大好きになり、移住を決めました。



登り窯から出る「火の粉」をイメージしたチラシは、裏面も要チェック!

※新型コロナウイルス感染症の感染状況により、イベント内容が変更する場合があります。詳しくは市ホームページなどでご確認ください。

藤井 ちょっと退屈な週末に外に出て、のんびり芝生に寝転んで楽しむ……そんな気持ちで来てもらえたらいいなと思っています。芸術むら公園が夜にライトアップするのは「火のアート」だけなので、ぜひその様子も見に来ていただけたら嬉しいですよ。

小林 コロナ禍で難しい部分もありますが、「火のアート」を通して多くの方に東御市の魅力を知ってほしいですね! 最後にお2人から、来場を検討されている方にメッセージをお願いします。

山中 秋の芸術むらを、五感いっばいにぜひ味わっていただきたいと思っています。美しい空の下で、みんな伸び伸び円を描きながら、秋の空気をカラダいっぱいめぐらしていきますよ!

編集担当・地域おこし協力隊 小林